

## イノベーションを成功させるためには

昨年の暮れも押し迫ったある日のこと、部下（仮に X 氏とする）と、次のような会話になった。

私：「そういえば年末年始は何をして過ごすの？」

X：「年末年始はゆっくり本を読もうと思っています。図書館で10冊借りてきました。」

日頃から勉強熱心な職員なので、あらためて感心するとともに、私も彼の言葉に刺激を受け、近所の書店へ本を探しに行った。特に決まった本が無いとき、現実の書店はありがたいものである。

書店でいろいろ物色していると、「イノベーションと企業家精神【エッセンシャル版】（P.F. ドラッカー（著）、上田惇生（訳）ダイヤモンド社）」が目についた。ドラッカーの著作であることとイノベーションという言葉に惹かれて手に取ってみた。そして、目次と気になるページをいくつか斜め読みして購入を決めた。

この書籍の中でドラッカーは、イノベーションの7つの機会をイノベーションに成功する確実性の高い順に記している。

最初は、「予期せぬ成功と失敗」である。ところが「予期せぬ」が故に、ほとんど気づかれることがない。したがって、この機会を活用するためには、視野を広めて「予期せぬ」事象に気づくことが必要なのだと思う。

一方、最後は、研究開発に代表される「新しい知識」なのだそうだ。道理で我々の仕事は困難の連続なわけだと妙に納得した。

ところで、ドラッカーは公的機関における企業家精神に関しても章を割いて説明を行っている。公的機関でイノベーションの障害になる要因は3つあり、その1つが業績ではなく獲得した予算額によって評価されることである等の指摘は、少し考えさせられるものがあった。我々の研究開発も、つまるところ社会貢献が目的である。そのため研究予算が必要なのであり、目的と手段を取り違えてはいけないことを再認識した。幸い、当研究所は、優れた評価システムを有しており、そのような障害は無いと信じている。

さて、新年を迎えたある日、再び X 氏と立ち話をして、本の話になった。

私：「そういえば、休み中に本を読むと言っていたけれど、どんな本を読んだの？」

X：「普段読まない小説です。渡辺淳一の『愛の流刑地』とか面白かったですよ。」

ドラッカーは次のようにも述べている。

「イノベーションを行う者自身の視野は狭くなりがちである。（中略）自分が知っている世界しか見えない。」  
実に勉強熱心である。

（雪氷チーム 上席研究員 松澤 勝）

\* \* \* \*

表紙左上記号 ISSN 1881-0497の説明

国際的なコード番号である ISSN (International Standard Serial Number : 国際標準逐次刊行物番号)は、ISSN ネットワークが管理する、逐次刊行物を識別するための固有の番号です。この番号は国立国会図書館 ISSN 日本センターから付与されたものです。